

府中市地区図書館の整備に関する基本方針について

府中市立図書館は、昭和36年の開館以来、中央図書館の移転や地区図書館の新設を行いながらサービスの拡充を進め、現在は13館体制で運営しております。

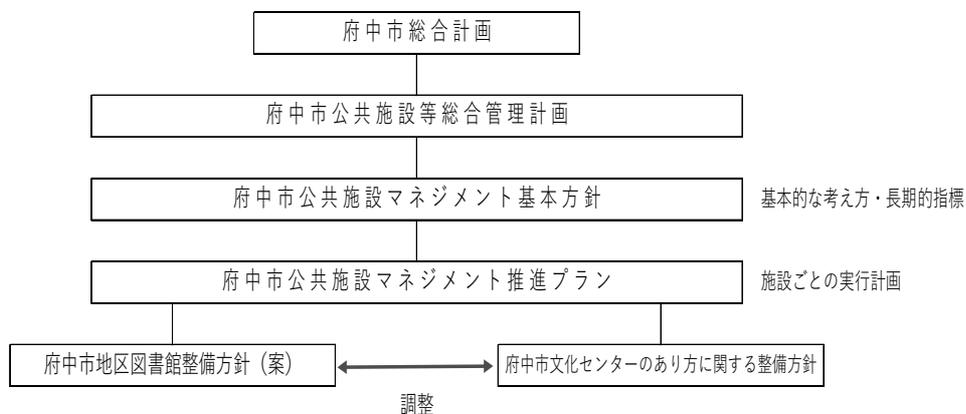
当市の地区図書館12館は、文化センター・生涯学習センター・ふるさと府中歴史館に併設されています。

文化センターは、建築後40年以上経過しているところも多く、老朽化対策を検討しており、令和5年1月に、「府中市文化センターのあり方に関する基本方針」が策定されました。この基本方針では、各文化センターの改修・建替えのスケジュールが示されています。

宮町図書館は、令和8年度（令和9年1月）に、ふるさと府中歴史館から市役所「はなれ」に移転することが決定しております。

生涯学習センター図書館につきましては、府中基地跡地の整備と併せて検討される予定です。

以上のように、今後、地区図書館が整備されている施設の大規模改修等が予定されております。この大規模改修等においては、新たに地区図書館を整備する場合や、軽微な改修に留まる場合など、施設によって状況は異なってきますが、これらの施設の大規模改修時に備えて、地区図書館の整備に関する基本方針（仮称）を定めるものです。



【趣旨】

ここで定める「府中市地区図書館の整備に関する基本方針」は、図書館法（第3条第5号）及び府中市立図書館条例に基づき設置する地区図書館について、府中市公共施設マネジメント推進プラン、府中市文化センターのあり方に関する基本方針及び文化・スポーツ施設配置等適正化計画等を踏まえ、今後の地区図書館の整備（主にハード面）に当たっての基本的な考え方を示すことを目的とします。

【地区図書館を取り巻く状況について】

1 現状

(1) 文化センター併設図書館

本市には、文化センターに併設された地区図書館が10館あり、地域住民が徒歩で気軽に立ち寄れる身近な情報拠点として機能しています。

文化センター併設の図書館は、それぞれの文化センターの規模により、書架や閲覧席の配置等が異なっていますが、各館で書架の整理や配置等を工夫し、地域住民が利用しやすい環境を整えています。また、利用者との距離が近いことで、利用者とのコミュニケーションを密にし、要望・ニーズに対して丁寧な対応を行うことができます。平日は比較的高齢者の利用が多く、その高齢者の一部は新聞や雑誌の閲覧を目的としています。一方、若年層は予約受取を上手く活用し、家族連れに関しては、土日等の休日の利用が多くなっています。

(2) 生涯学習センター図書館

生涯学習センターは、多種多様な学習の機会の提供と、「いつでも、誰もが学習できる環境づくり」を目指す、総合学習施設です。図書館のほか、講堂や研修室、温水プールやトレーニング室等があり、その利用者が来館することも多い施設となっています。

また、閉館時間が平日は19時であり、他の地区図書館よりも開館時間が長く、面積や蔵書数も地区図書館の中では一番の広さ・数となっています。

特徴としては、閲覧席が多く、館内も広いため、他の地区館と比べて勉強や読書目的で長時間滞在する利用者が多く見られます。また、近くに府中市立美術館があることから美術館コーナーを設けるほか、生涯学習センターでの講座やサークル活動に関連する資料も収集しています。

(3) 宮町図書館

大國魂神社境内にあるふるさと府中歴史館に併設されており、府中駅や府中本町駅からの交通の便が良く、飲食店やショッピングモールなどが揃う商業施設が近隣にあるため、比較的用户者が多くなっています。

特徴としては、大國魂神社境内という立地の関係で、大國魂神社や府中の歴史に関するレファレンスが長く、また、近隣に商業施設が充実している影響から、何かの「ついで」に図書館によるケースが多い施設となっています。また、駅周辺に新しいマンションが多数建設されている影響から、他館と比べ平日でも幼児を連れた親子での利用が多くなっています。しかし、閲覧スペースなども限りがあり、時間帯によっては満席となっている状況にあります。

令和9年1月に、市役所本庁舎の建替えに伴い、市役所「はなれ」に移転

することが決まっております、かつ、広聴相談課が所管する市政情報公開室との一体的運用の検討を進めています。

2 課題

(1) 文化センター併設図書館

押立文化センターと片町文化センターを除く 9 館の文化センターは、昭和 40 年代から昭和 50 年代前半に建築されており、大規模改修や耐震改修は行われているものの、老朽化が進行し、雨漏りが発生している地区図書館もあります。また、古い設計基準のため、通路が狭い、書架や読書席が少ない、死角が発生している、バリアフリー化されていないなどといった問題があります。更に、建物の老朽化と同様、蔵書も古くなってきており、窓が多く日当たりの良い地区図書館では、本の日焼けが早く、資料が劣化しやすくなっています。

地区図書館のみならず、活字離れなどの理由により図書館の利用者が年々減少しています。特に子ども・中高生などの若者世代の利用が減っているなか、一般書架・閲覧スペースと児童コーナーが隣り合い、様々な年齢の利用者が快適に利用しづらくなっている状況です。

令和 5 年 1 月、文化センターの老朽化対策を定める方針として「府中市文化センターのあり方に関する基本方針」が策定されましたが、中央文化センターを除く 10 館の文化センターには、地区図書館が併設されています。そのため、文化センターに併設されている地区図書館の今後の方向性については「府中市文化センターのあり方に関する基本方針」を参考にする必要があります。

(2) 生涯学習センター図書館

ちゅうバスのバス停はありますが駅から遠く、また、若い世代の利用者が少なくなっています。全館空調となっており、こまめな温度の調節ができないため、時期や時間帯によっては快適に過ごすことができない状況です。

隣接する府中基地跡地の整備に伴い、生涯学習センターの学習機能は中心市街地へ移設される予定となっており、生涯学習センター図書館については、文化・スポーツ施設配置等適正化計画において、他の機能を持った施設と併設予定です。併設される複合施設の機能と活かしあえるような設備・蔵書について検討する必要があります。

(3) 宮町図書館

併設されているふるさと府中歴史館は、昭和 42 年に建設されたもので、文化センター同様、施設の老朽化が進んでいます。

商業施設に立ちよる「ついで」に利用でき、会社勤めの方も昼休みに気軽に立ち寄れる立地である反面、子ども・中高生などの若者世代の利用者は少なくなっています。

今後、市役所「はなれ」に移転した後は、市政情報公開室との一体的な運用を行う予定です。従来の利用に加えて、行政資料などの利用も見込まれるため、行政資料の充実・整理が必要となります。